

平成28年度第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

1 日時及び場所

平成28年5月30日（月）
近畿中国森林管理局4階第3会議室

2 議題

- (1) 平成28年度重点取組事項について
- (2) 近畿中国局管内の需給動向について
- (3) 国有林材供給調整の必要性について
- (4) その他

3 議事概要

《検討結果》

住宅関係では、注文住宅が昨年並みを維持しているが、これまで市場を牽引してきた分譲住宅は在庫があるために新規着工が鈍い。また、消費税が増税されるかどうかとの声も聞かれる中、増税は無いとの見方が広がっており、分譲系ビルダーは新規分譲の展開を強化するか様子見の状態である。

原木の動向は、出材が回復する一方、製品需要が乏しく、原木相場は弱含みの展開となっている。

合板関係では、東北の合板メーカーの工場火災により一時仮需が発生したが、現在は収まる傾向にある。

チップ関係は、バイオマス・製紙向けとも需要は堅調である。

現在の木材の需給動向に目立った動きはないことから、国有林材の供給調整の必要性は認められない。

〈主な情報、意見について〉

○国産材の供給及び価格の動向について

- ・和歌山県内に徳島県の大手素材生産業者の営業所ができており、四国方面にも素材が流れている。県内に大きな需要がないため、今後需要をどう拡大していくかが大きな課題となっている。
- ・年明けから春先にかけて天候に恵まれ、冬伐りの材も含め順調に素材生産が行われた。奈良県桜井市の原木市場ではヒノキ材の市況が依然として安値安定のためスギの出材が主体となっていたが、5月に入り出材量は減少傾向にある。並材の価格は出材量の増加に伴い値下がり基調で推移。下級材はバイオマス取引により安定している。
- ・兵庫県赤穂市のバイオマス発電が順調に稼働している。その結果、素材生産業者にとって今まで利用していなかった木材がお金に変りつつある。兵庫県におけるバイオマス燃料の需給バランスは、今のところ供給側が小さいと思われる。

○原木需要分野（川下）の動向について

- ・大手ハウスメーカーやパワービルダーの仕事は順調に進んでいるようだが、市場にとって大事な一般の注文建築材が低調に推移している。加えて最近では消費税の増税が先送りされる空気の中で徹底した当用買いのため、売上げを伸ばし切れていない。

- ・ 4月に岡山県真庭市にCLT工場が完成した。原木（スギ材）の安定供給に向けた協議会を作っており、今年は需給や流通形態に変化が見られる年になると思われる。
- ・ 4月に秋田の合板工場で火災が発生し全焼した。直ちに合板の仮需が起こり、弱含みの状況であった市況が持ち直した。また、4月に発生した熊本地震による需要は、大きくないと思われるが、需給にじわりじわりと影響を与えられられるので、合板価格は高値で安定するのではないか。

○その他

- ・ 合板価格は他の製材品と比べまだ安いと考えている。供給過剰でない限りもう少し価格が上がればと思う。
- ・ 今まで生産量を確保できたのは、一番搬出条件の良い現場からスタートし、列状間伐、高密度路網、機械化をどんどん進めてきたためである。これからは条件が悪くなっていくため、生産性の低い事業者がこれまで通りに事業量を確保し続けていくのは難しいと思われる。